



「う」 みたて投資枠は少額からでも利用できるが、成長投資枠はまとまった資金が必要」と誤解しているお客様が少なくない。

成長投資枠は「毎月1万円、25日の給料日に全世界株式で運用するファンドを買い付ける」というつみたて投資枠とは異なり、一般的にスポットで一括購入する。そのこ

質問2

成長投資枠で運用するにはまとまったお金が必要なんですか？

▼運用する資金の性格を聞き継続性を見極める

とが「成長投資枠は資金に余裕のある人が利用するもの」「若い人向きではない」という認知につながっている。

しかし、「スポットの一括投資額」まとまったお金ではない。例えば、余裕資金ができる都度、成長投資枠で投資信託を購入するといった使い方もできる。

運用する資産の性格はどちらから聞いてみる

この担当者は「まとまったお金が必要なんですか？」と言うお客様に対し「そんなことはない」とまず否定した後、お客様が運用したいと考える金額を聞いています。答えは10万円だが、仮に30万円で

▼このように対応しよう

成長投資枠で運用するには、まとまったお金が必要だって聞いたんですけど...

そんなことはございません。現在、おいくらくらいの投資をお考えでしょうか？

10万円くらいです。ボーナスで余った資金なんですけど、少なすぎますか？

それでしたら、成長投資枠で運用するのに相応しい資金だと思います

も5万円でも、成長投資枠が利用できる。

ここではお客様の方から、ボーナスで余った資金だと言っている。この「運用しようと考えている資金」の性格については、お客様から言われずとも「そのご資金は、どういふもののですか？」など

今回のようにボーナスで余った資金であれば、今後も発生する可能性が高い。次のボーナスでも、余った資金で成長投資枠を利用した投資信託の購入が見込まれる。

担当者は最後に「それでしたら、成長投資枠で運用するのに相応しい資金だと思います」と言っている。単に「少額でも大丈夫ですよ」というのではなく、今後の継続的な利用も見据えた会話ができていくことが分かる。

NISAでの運用に関するお客様の質問にはこう対応しよう



質問1

60歳代からNISAで積立投資は遅いよね？

▼資産形成の長期化を基に背中を押す

厚 生労働省の令和4年「高齢者雇用状況等報告」によると、60歳定年到達者の87・4%が継続雇用を選択している。さらに70歳までの就業機会確保が努力義務として課されている中、41・6%の企業には70歳以上まで働ける制度がある。

65歳以降も働けば、その期間は給与所得がある。国は長く働くことで資産形成の期間を長くし、金融資産の取崩し時期を遅らせ、公的年金の繰下げ受給を行うことで、セカンドライフの経済的不安を軽減する想定をしている。

毎月給料が入るなら、何歳だろうと立派な現役世代だ。70歳まで働くのであれば、N

ISAを利用して積立を行う期間はまだ10年間もある。

金融資産の取崩しは後倒しが主流に

担当者は何歳くらいまで働きたいかを聞いています。「70歳くらいまで」という回答を得たら、「それならまだ10年

間、資産形成期間があまりま

す」と答える。

かつては定年退職し年金生活になると、公的年金だけでは足りない分を金融資産の取崩しで補うのが一般的だった。しかしいまは金融資産を取り崩す時期を後倒しにし、その分の期間を資産形成期間とするのがスタンダードになりつつある。担当者は、「そういうお客様が多いですよ」という言葉で、お客様の背中を押している。積立投資を始めるのに遅いことはない。

▼このように対応しよう

60歳代になってNISAで積立投資を始めるのはもう遅いよね？

お客様は何歳くらいまで働かれるおつもりでしょうか？

人生100年時代というし、70歳くらいまでは働きたいと思っているよ

それでしたら、まだ10年間、資産形成期間がございます。60歳代でも積立を始めるお客様は多く、遅いということはありません